

## 経営学部創立 50 周年記念号の発刊にあたって

経営学部長 小本 恵照

今年度、経営学部は創立 50 周年を迎えました。その間の歴史を振り返りますと、1969 年（昭和 44 年）に経営学部が創設され、1971 年（昭和 46 年）には経営学部第 2 部が増設されました。2002 年（平成 14 年）にフレックスシステム（昼夜開講制）を開始しましたが、2008 年（平成 20 年）に経営学科フレックス B を市場戦略学科に改組することで 2 学科体制となり現在に至っています。1969 年の創設以後、これまで 31,844 名の卒業生を輩出しております。また、現在は、2,348 名の在学生在が学んでいます。このように組織として成長を遂げ、社会に有為な人材を多数輩出してきたのは、歴代学部長のリーダーシップのもとで学部教員が研究・教育に熱い思いを持って邁進してこられた賜物だと思っています。また、その間に培われた良き伝統や文化も研究・教育に大きな影響を与えたと推察いたします。

50 周年という大きな節目の年を迎えるに当たり、そのお祝いと今後の前進に向けていくつかの企画をして参りました。具体的には、(1) 創立 50 周年記念シンポジウム・記念パーティの開催、(2) 50 周年記念写真集の作成、(3) 50 周年記念誌の作成、(4) 50 周年記念論文コンテストの実施です。これら一連の記念行事に加え、『駒大経営研究』では 50 周年記念の特集号を発刊する運びとなりました。本特集号は、歴代経営学部長などからの寄稿、専任教員の論文 5 編、および資料から構成されています。

記念すべき 50 周年を迎えるに当たり、『駒大経営研究』の原点を振り返ることと今後の機関誌の在り方を考えてみたいと思います。その原点は、経営学部が創設された 1969 年の 7 月に発刊されている『駒大経営研究』の創刊号の巻頭言として「機関誌の発刊にあたって」というタイトルで記載されている当時の経営学部長の佐々木吉郎先生の文章に見ることができます。少々長くなりますが、引用させていただくと、佐々木先生は以下のように記述されています。

「駒沢大学の経営学部は、昭和44年4月に開設された新しい学部である。この開設早々の学部で、専門教育の諸学科目を担当する専任教員が集まって「経営研究会」を組織することになり、「駒大経営研究」を季刊として世に送ることになった。少数のスタッフで季刊を続けることの容易でないことは、よくわかっているのであるが、研究に情熱をかたむければその成果を発表することができ、この機関誌を通じて多少の貢献ができるであろうと思う。

周知のように、現在、大学の危機が告げられ、身をもってこれに直面している。大学の本質があらためて問われているのであるが、やはり研究に基づく教育以外にはない。大学に席を置く以上、研究に精進しなければならないのであり、それをもとにして語らねばならないのである。

われわれは、このように自覚して、この機関誌を通じて、それぞれの分野に応じて、貢献できることを希っている。願わくば大かたの諸彦の叱正と支援とを得て、本誌が成長を遂げんことを。」

この創刊号には6編の論文が掲載されており、新学部が創設された直後に佐々木先生を中心にして研究と教育に情熱を注いでおられた先生方の様子が伝わって参ります。創刊号の刊行から50年が経過し、経済、社会、情報技術などは当時と大きく変化しました。しかし、大学が提供すべき本質的なサービスの内容は、50年前と変わっていないと感じます。すなわち、「やはり研究に基づく教育以外にはない」という先生のお言葉です。これまで、『駒大経営研究』は専任教員が研究成果を発表する場として順調に成長を遂げてきました。50年という節目を迎えるに当たり、発刊時に『駒大経営研究』に込められた佐々木先生の希望を心に刻み、研究と教育に励む中で今後の本誌の更なる充実を図っていきたいと考えています。